

ニュースレター

いりおもての森から

発行：林野庁 九州森林管理局 西表森林生態系保全センター

沖縄県石垣市字登野城55-4 石垣地方合同庁舎 1 階

TEL 0980-88-0747

No.70号

カヤックを使用し調査！

～仲間川台風被害地とウタラ川のオヒルギモニタリング調査を実施～

西表島は、貴重な固有種や絶滅危惧種が数多く生息・生育しており、生態多様性保全上重要な地域であることが評価され、令和3年度、世界自然遺産に登録されるなど、多様な生態系に多くのスポットが当てられていますが、それらを形成するための複雑な地形も魅力の一つです。島全体の90%は亜熱帯の原生林で形成されており、雨が多いため河川が発達し、沖縄県最大の河川である浦内川をはじめとした、大小たくさんの河川が混在していることから、カヤック等を使用したアクティビティは観光客から人気のレジャーとなっています。

当センターでは、河川や支流にある調査箇所など、徒歩での移動が難しい箇所ではカヤックで現地まで移動しており、9月3日（水）と9月4日（木）に、「仲間川台風被害地」と「ウタラ川の巨木オヒルギ」の調査を実施しました（写真1）。

仲間川台風被害地は、平成18（2006）年9月（台風13号）と平成19（2007）年9月（台風12号）に2年連続で襲来した台風により倒伏被害を受けた箇所で、日本最大のマングローブ林の面積を誇る仲間川にあります。出発地点の河口付近は川幅が200mを超えるところもあり、雄大な景色を堪能しながらカヤックで移動できましたが、調査地は支流の奥に位置していることから不慣れなパドル操作に苦労しながら現地に着し、無事に調査を終えることが出来ました（写真2）。



（写真1）保護具も付けて、準備完了

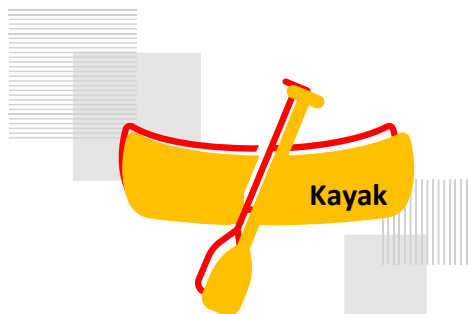
また、ウタラ川の巨木オヒルギの調査箇所は、沖縄県内最長の浦内川の支流であるウタラ川にあり、推定樹齢 350 年の西表島を代表する巨木のオヒルギを目当てに、カヤックで訪れる観光客を多く見かけることができます。支流自体に名称がつけられているように、仲間川より現地までの移動距離が長く、また干潮の時間帯でもあったため、座礁しないよう慎重に現地へ向かい、無事調査を終えることができました。

狭い支流の中をカヤックで移動するのは難しく、干潮時を狙わなければ調査箇所が水没して作業ができないため、往路は引き波（干潮時に河川上流を上るため）に、復路は押し波（満潮時に下流に下るため）と進行方向に逆らうような形でカヤックを漕ぐことから、現地に向かうだけでも一苦労でした。一方で、仲間川、浦内川ともに、雄大な自然の中をカヤックで移動する爽快感はとても気持ちよく、到着した際にはここでしか味わえない達成感もあり、西表島でのカヤックを使用したアクティビティが人気である理由が分かります。

当センターとしては、積極的にカヤックを活用しながら、希少な生態系の保全、維持のためのモニタリング調査を今後も進めていきます。



（写真2）現地到着



西表島の樹木いろは①



アワダン(ミカン科)

（出典：西表島の植物誌）

山野に生息し、高さ3〜5mの常緑の低木で全体に毛はありません。若い枝は緑色ですが、2年目からは灰白色になります。花は葉腋から白く小さな花が円錐花序につき、実は2個から4個に分かれ、種はやや平たく長さ約3mmです。

【アワダン】

『森の巨人たち百選』

～仲間川のサキシマスオウノキ調査を実施～

林野庁では、全国の国有林内に生育する巨樹・巨木を国有林野の財産として将来にわたって保全することを目的に、各地の代表的な巨樹・巨木を平成12（2000）年に「森の巨人たち百選」として選定しており、現在、九州森林管理局内では17本の生育が確認されています。

西表島の国有林内においては「仲間川のサキシマスオウノキ」と「ウタラ川のオヒルギ」の2本が選定され、当センターでは平成17（2005）年から毎年、両巨木の生育状況を確認し、その調査結果を「西表島巨樹・巨木保全協議会（以下、「保全協議会」という。）」に報告することとしています。

今年度においては、令和7年5月28日（水）、仲間川上流に佇む「仲間川のサキシマスオウノキ」の調査を当センター職員4名で実施しました。

調査内容は、樹高や板根測定を行う生育調査、光環境の変化を調べる開空度調査、枝張りの変化を調べる樹冠調査、林床植生を調べる林床および着床植物生育調査の4つを実施し、希少な巨樹であるサキシマスオウノキと周囲の林床を傷つけないよう気を付けながら調査を進めました（写真3、4）。

調査の結果、樹高や板根の計測値に大きな変化は見られず、下層植生にはサキシマスオウノキやサガリバナの稚樹等が複数見られるなど、生育状況や生育環境については良好であることが伺えました。一方、オキナワアナジャコの営巣やアダンの侵入などが確認され、昨年襲来した台風による枝折れの発生、令和5（2023）年度、保全協議会により「締め殺しの木」といわれているアコウの除去が行われたこと、現在は衰退していますが、数年前には「タカサゴシロアリ」の営巣が確認されるなど、巨樹に忍び寄る脅威が減ることはありません（写真5）。

当センターでは様々な脅威から巨樹を守るため、現状を把握することが大切な業務でもあります。仲間川のサキシマスオウノキは推定樹齢400年と老齢であることから、樹木の樹勢や生育環境等を今後も注視し、保全協議会と協力のもと保全・保護に努めていきたいと考えています（写真6）。



（写真3）板根測定の様子



（写真4）開空度測定の様子



（写真5）タカサゴシロアリの巣（現在は衰退している）



（写真6）巨樹全景

西表島の希少な動植物を守る！

～希少種持ち出し防止パンフレット配布に参加～



配布したパンフ（一部）

八重山諸島は多くの自然に恵まれており、中でも西表島は貴重な動植物や固有種、絶滅の危機に直面している希少種が多数生息していますが、希少な動植物には様々な規制が設けられていることを知らないため、触れてしまう事や、持ち帰ってしまう事、中には傷つけてしまった等の事例が少なからず存在しています。そのような事例を防止し、希少種の保護と理解を深めることを目的に、環境省が作成した希少種の存在と規制を周知するパンフレット等を西表島の玄関口である大原港と上原港の2箇所で観光客に配布しました（写真7、8）。

パンフレットの配布は、観光客が増加するゴールデンウィーク（5月3日）及び夏休み期間中（8月2日）の2回、環境省、パークボランティア、竹富町、沖縄森林管理署、当センター職員で行い、規制が設けられている希少種の名前や特徴を示した資料や、イリオモテヤマネコ

が道路で多く目撃されている区間、また、レンタカーを利用する際の走行速度を注意喚起する資料について、来島した多くの乗客の方々に配布することが出来ました。

秋季には昆虫採集を対象としたパンフレットを配布する計画となっており、西表島の希少な動植物を守るためにも、環境省、竹富町と協力し、生態系の保全に取り組んでいきたいと思ひます。



（写真7）配布の様子（大原港）



（写真8）総勢 11 名で頑張りました

世界自然遺産区域内から根絶！

～ 外来種対策 ギンネム駆除 ～

沖縄県南部に位置する西表島は、国の特別天然記念物に指定されているイリオモテヤマネコやカンムリワシが生息し、令和3（2021）年には奄美大島、徳之島、沖縄島北部とともに世界自然遺産に登録されています。希少な野生動植物が生息・生育する一方、それらの動植物に悪影響を及ぼす恐れがある外来生物も多く確認され、「世界の侵略的外来種ワースト100」に掲載されている「ギンネム」も西表島の道路沿いや空き地などに数多く侵入し、世界自然遺産区域内にも侵入している状況もみられています（写真9）。

当センターでは、外来種対策として、西表島が世界自然遺産に登録される前からギンネムの駆除を継続して取り組んでいますが、現在は請負事業による抜き取りと伐採、そして、職員実行による稚樹の引抜きや防草シート設置などを実施しています。請負事業では重機を使用してギンネムを根から引き抜き、樹幹・根・葉先までを持ち出す「抜き取り駆除」と胸高直径が4 cm以上に生長した成木を根元から伐採・搬出する「伐採駆除」を実施し、職員による駆除では、実生で発生した稚樹を引き抜く「引抜き駆除」や成木伐採後の伐根を防草シートで覆う「防草シート設置駆除」に取り組んでいます（写真10、11、12）。

ギンネムの侵入区域が拡大することは在来植物の生育に大きな影響を与えるばかりでなく、生物多様性への影響も懸念されます。当センターでは世界自然遺産に登録されている西表森林生態系保護地域からギンネムを少しでも減少させ、拡大を抑制するため色々な手法を用い駆除作業に取り組んでいます。

ギンネムを絶滅させることは容易ではありませんが、今後とも職員一丸となりギンネム駆除に取り組んでいきたいと考えています。



（写真9）萌芽するギンネム



（写真10）伐採駆除したギンネム



（写真11）防草シートを設置する職員



（写真12）ギンネム発生を抑止（防草シート設置1年後）

チーム名はF&R（フォレスター＆レンジャー）！

～ 海神祭 第119回石垣市ハーリー大会に参加 ～

ユッカヌヒー（旧暦5月4日）にあたる5月30日に「令和7年度 海神祭」が開催され、郡内最大規模の第119回石垣市ハーリー大会に参加しました。海神祭は漁業者の航海安全と豊漁を祈願する行事で今年度は、西表森林生態系保全センターと環境省との合同チーム【チーム名：F&R（フォレスター＆レンジャー）】でエントリーし、全70チーム【全14組（1組5チーム×14）】の中から優勝を目指して、タイムを競い合いました。

8組目で本番を迎えた私たちF&Rは、業務での連携や協力で培ったチームワークを活かして組内1位を目指し、所長の「よいさー！」の掛け声に合わせてエーク（櫓）を漕ぎ、ゴールに向け全力を尽くしました。練習では、掛け声と共に前後タイミングの合ったエーク漕ぎでサバニ（手漕ぎ舟）を操縦していましたが、本番では、緊張や対戦相手に勝ちたい思いが相まって、各々タイミングを合わせるよりも全力でエークを漕いでいた印象を感じました。後半は、タイミングを合わせて順調に操縦していましたが、乳酸が腕に蓄積しはじめ、最後は気力との闘いでした（写真13）。結果は5チーム中5位と悔しい結果となりましたが、沖縄の伝統的な競漕イベント「ハーリー」をとおして、島の熱気と伝統を体感した貴重な経験を得ることができました（写真14）。



（写真13）気力を振り絞ってゴール！



（写真14）出場者で写真撮影

◆◆人事異動（令和7年4月1日付け）◆◆

◆お世話になりました◆ 転出：須寄 翔太（転出先：大隅森林管理署）

◆よろしくお願いします◆ 転入：津波 佳樹（前任地：福岡森林管理署）

西表森林生態系保全センターからのお知らせ

※ホームページではニュースレターのバックナンバーが確認できます。また日々の活動報告などのトピックスも随時更新しています。

https://www.rinyamaff.go.jp/kyusyu/iriomote_fc/

